

都市再生整備計画 事後評価シート
群馬中央地区

令和5年1月

群馬県高崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県	市町村名	高崎市	地区名	群馬中央地区	面積	112.2 ha							
交付期間	平成30年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	547.6百万円	国費率	0.444							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ・道路：群馬中央幹線横断歩道橋安全通路路整備事業 ・地域生活基盤施設（地域防災施設） ： いっとき集会所整備事業 ： 雨水排水路整備事業											
		提案事業	-											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路：群馬中央幹線横断歩道橋安全通路路整備事業	削除/追加の理由	中央幹線の暫定供用(2車線)に合わせて、歩行者用信号と横断歩道を設置し、本事業期間では一定の安全対策が講じられたため。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	歩行者用信号設置等は、ワークショップ等を通じた地元要望であることから、本事業が削除されても、数値指標に対する影響は生じない。					
		提案事業	-	-	-			-						
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-	-			-						
		提案事業	-	-	-			-						
交付期間の変更	当初	平成25年度～令和4年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-										
変更	変更	-	-	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
	指標1	安全安心を実感する歩行環境の充実	%	38.0	H29	50.0	R4	-	52.6	○	あり	●	区画整理事業を主体とした基盤整備と、歩行環境整備事業により、日常生活での安全意識が向上した。	-
	指標2	治水対策、自然災害対策に対する不安度の低減	%	37.0	H29	30.0	R4	-	29.5	○	あり	●	雨水排水路整備が進むとともに、系統的な道路側溝が整備されたことにより、従前のような大きな冠水被害が低減された。	-
指標3	計画期間内の平均転入戸数（新築）の維持	戸	10	H28	10	R4	-	12.4	○	あり	●	高水準で、安全安心が実感できる宅地整備が進み、地区外からの転入意欲が維持されている。	-	
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
その他の数値指標												-		
4)定性的な効果発現状況	・区画整理事業の堅実な進展により、既存集落での住環境改善と、土地利用転換型（農地から宅地）の新市街地整備が進められ、誰もが住みたいと感じる街づくりが図られている。 ・地域における歩行環境の整備に伴って、子供からお年寄りまでの人の流れが活性化している。 ・地域防災に関する啓発活動を通して、旧来からの住民と新しい住民間での連携意識や、自主防災への主体的な取り組み意識が向上した。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	-			計画に記載し、実施できた 計画に記載はなかったが、実施した 計画に記載したが、実施できなかった				-					
	官民連携による取り組み	・群馬中央地区「安全安心まちづくりルール」の活動 ・区画整理審議会における意見聴取			計画に記載し、実施できた 計画に記載はなかったが、実施した 計画に記載したが、実施できなかった				● ・区画整理事業の進展に合わせた災害時避難ルートの確立と、地域への一層の周知徹底を図る。					
持続的なまちづくり体制の構築	・地域主体の地域防災に関する継続的学習。 ・自然災害について基盤施設の整備促進。			計画に記載し、実施できた 計画に記載はなかったが、実施した 計画に記載したが、実施できなかった				● ・地域主体の学習組織の運営。 ・雨水洪水対策事業を推進する。						

様式2-2 地区の概要

群馬中央地区(群馬県高崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
【災害に強く、長く住み続けたいと思う、住む人が安心を実感するまちづくり】 ①安全が目で見えて、それを実感するまちづくりを目指す。 ②洪水や浸水のないまちづくりを目指す。 ③住みたい、住み続けたいと思うまちづくりを目指す。	安全安心を実感する歩行環境の充実	単位: %	38.0 H29	50.0 R4 52.2 R4
	治水対策、自然災害対策に対する不安度の低減	単位: %	37.0 H29	30.0 R4 29.8 R4
	計画期間内の平均転入戸数(新築)の維持	単位: 戸	10 H28	10 R4 12.4 R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業で住宅地の整備が進み、堅調な地区転入も見られるが、従来からの住民層と新住民との平均的な年齢差があることから、両者の世代間ギャップが生じ、地域コミュニティ形成が円滑に進まない事例がある。 地区内に立地している大型商業施設駐車場利用に際して、地域内発生車両との交通事故発生が懸念されている。 区画道路網が整備された区域では、道路側溝による系統的な雨水排水処理が進み、従前のような冠水被害は解消されつつある。今後は、残り区域の整備を進めるとともに、雨水調整池の整備を図ることが必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップなどとおして、防災と防犯に関する、地域住民の主体的な実践力を強化し、安全で住み続けたいと思う地域づくりを進める。 雨水排水処理が不十分である地域の解消を進め、浸水被害のない、健康的な市街地の整備を進める。